

CITY



UNIVERSITY

大阪市立大学広報誌



Vol.21
May 2016

CONTENTS

●P1 特集

新入生の みなさんへ

学長・研究科長よりメッセージ

●P5 Research / 藤原靖弘 教授(医学研究科)・神田展行 教授(理学研究科)

●P6 Education / Global Villageオープン!

●P7 Researchers / 高田輝子 准教授(経営学研究科)
福田美穂 准教授(生活科学研究科)・水関健司 教授(医学研究科)

OCU TOPICS

●P8 @ Campus

学長特別顧問を任命
五代友厚銅像を建立
「防災士養成講座」を開始!
ほか

●P10 大学サポーターだより

OCU INFORMATION



新入生のみなさんへ



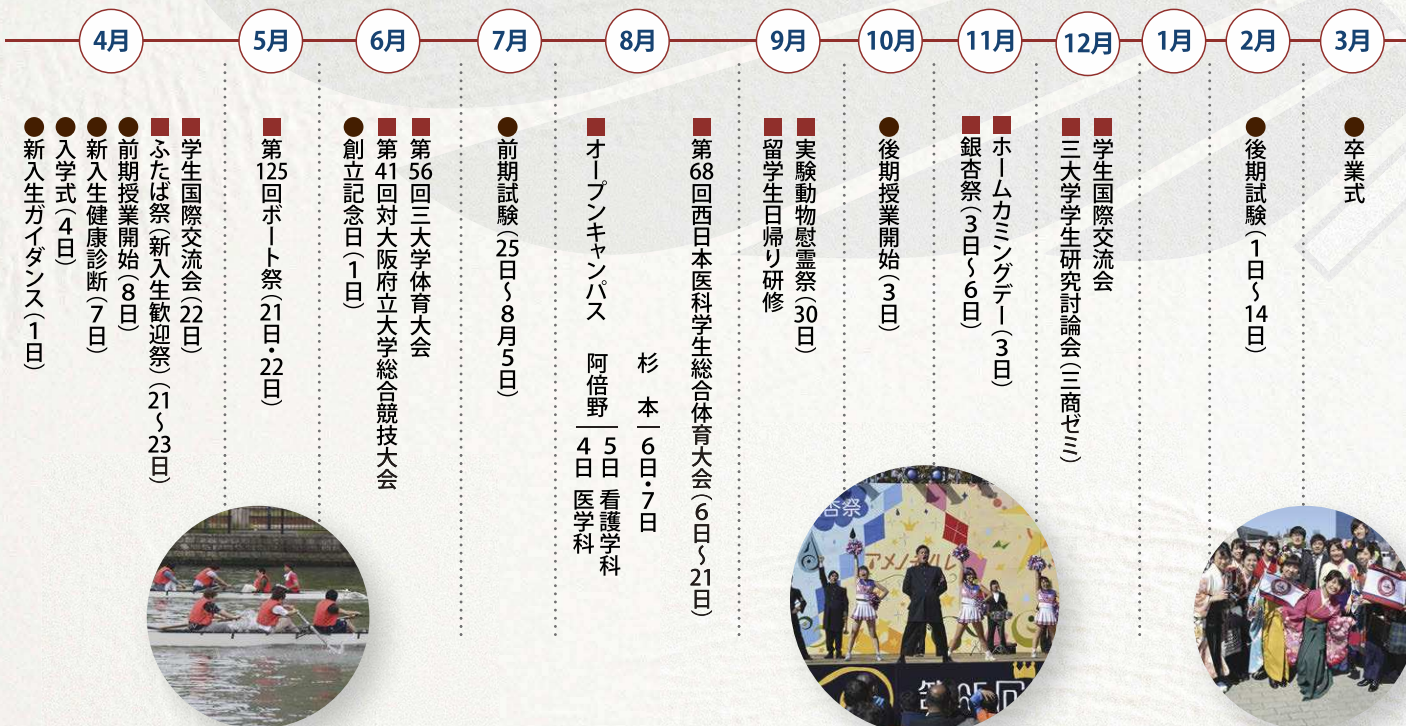
ようこそ、大阪市立大学へ！

私は「笑顔あふれる知と健康のグローバル拠点」をスローガンに掲げ、学生、卒業生、市民の皆さま、教職員をはじめとするさまざまなステークホルダーの皆さまと、さらなる誇り高い大学、夢を実現できる大学をめざします。

本学は、創立136年の歴史と伝統を有する公立大学です。今号の広報誌では、主な年間行事と本学の歴史について紹介します。皆さんの学生生活が、脈々と流れ続ける本学の長い歴史の一部として刻まれていくことを実感してください。本学の歴史を知り、大学への理解を深めていただくことで皆さんの愛校心が高まることを願っています。共に「笑顔あふれる」大阪市立大学を創りましょう！

あらかわ てつお
大阪市立大学 学長 荒川 哲男

平成28年度 主な年間行事



沿革と歴史



源流：大阪商業講習所

本学の源流である「大阪商業講習所」は、1880(明治13)年に現在の大阪商工会議所、大阪株式取引所(現、大阪証券取引所)の生みの親であり「大阪の恩人」とも言われる五代友厚をはじめとする、当時の大阪財界有力者たちによって創立されました。五代は「欧米先進国と対等に渡り合うには、商人にも学問が必要」と説き、東京に次ぐ我が国2番目の商法学校「大阪商業講習所」を設立しました。



大阪商業講習所
創立員代表
五代 友厚

市立大阪商業学校

大阪商業講習所は、1885(明治18)年には府立大阪商業学校へ、1889(明治22)年には大阪市の発足に伴い「市立大阪商業学校」へと発展しました。飯尾一二(大阪合同紡績社長)や野村徳七(大和銀行・野村証券創設者)をはじめ、喜多又蔵、岩本栄之助(大阪中央公会堂寄進者)、杉山金太郎(豊年製油社長)、田中吉太郎(本学田中記念館寄進者)など、後の大阪財界を代表する人物を多数輩出しています。

市立大阪高等商業学校

「市民自身の手で高等学校を」という大阪市民・同窓生の熱意により、1901(明治34)年、市立大阪商業学校は、「市立大阪高等商業学校」への昇格が実現します。そして日露戦争、北の大火*を経て、烏ヶ辻校舎が新築されました。この烏ヶ辻校舎から、後に我が国初の市立大学となる「大阪商科大学」が誕生するのです。

*1909(明治42)年7月に大阪市北区空町で発生した大火事。
この火事により、堂島校舎が全焼。

大阪商科大学

關一市長をはじめ、同窓生及び大阪市民の十年間に及ぶ熱心な昇格運動が結実し、1928(昭和3)年、単科大学ながら学部・予科・高等商業部の三位一体構成を特色とする市立「大阪商科大学」が誕生しました。河田嗣郎初代学長の下、各地から優秀な教員スタッフが次々に集められ、杉本町に新学舎が建設されました。



第7代 大阪市長
關 一

大阪市立大学へ

第二次世界大戦後の学校制度の大改革により、大阪商科大学、大阪市立都島工業専門学校、大阪市立女子専門学校を統合し、1949(昭和24)年に新制総合大学である「大阪市立大学」が発足しました(商・経・法文・理工・家政学部)。恒藤恭学長のリーダーシップの下、学部・施設の整備・充実が進められ、大阪市経済研究所もこれに合流しました。

1955(昭和30)年に大阪市立医科大学を編入して医学部を設置。2003(平成15)年に創造都市研究科、2008(平成20)年には看護学研究科を開設するなど、8学部10研究科の陣容を誇る日本最大規模の公立総合大学へと発展していきました。

新入生の みなさんへ

ふくはら ひろゆき
福原 宏幸 経済学研究科長
経済学部長

新しい環境は刺激的ですが、戸惑いをもたらします。大学また然り! 1年生というこの不安定な時期を乗り切り、実り多い学生生活に導いてくれるのは、豊かな出会いです。新しい学生仲間や先生たちに進んで話しかけ、一緒になって「自分探し」の4年間に向け船を漕ぎ出しましょう。

おだなか あきひろ
小田中 章浩 文学研究科長
文学部長

私たちはどこから来て、どこへ向かうのか。私たちが今、この世界に生きていることにどのような意味があるのか。そうした根源的な問いかけを行うのが文学部の学びです。そのために、人間の歴史、行動、言葉、想像力、あるいは人間という存在そのものについて、文学部の教員は研究を行っています。

きよた たくみ
清田 匡 経営学研究科長
商学部長

人口の減少が進むなか、日本の経済も社会も大きな変革の時代になっています。このような変革を待ち受けるだけでなく、自身が変革を惹き起こす気概を持って学問に取り組んでください。1年前期は特に重要です。この時期の躓きは、卒業までひびきます。1年前期は特に慎重に毎日を積み重ねてください。

かなざわ まり
金澤 真理 法学研究科長
法学部長

「知る」ことで不安が拭われ、進むべき途が見えることがあります。真実が決して一つとは限らない、複雑な現代社会の課題に直面しても、様々な意見に耳を傾けつつ知を探究することが、問題解決の重要な足がかりとなるのです。「真理は私たちを自由にする」という言葉を胸に、探究の旅に出てください。

なかざわ ひろし
中沢 浩 理学研究科長
理学部長

心を研ぎ澄まし、自然から送られてくる小さなサインを受け止め、英知を結集すれば、真理の一端が垣間見えてきます。そして自然との対話ができれば心が躍ります。理学部は皆さんがそのような感動を得られるように、最大限のサポートをします。自然の摂理を解き明かす術を身に付けましょう。



OSAKA CITY

研究科長より

おおはた けんじ 医学研究科長
医学部長

大学生活では、同じ釜の飯を食べることにより気が置けない友達を作ってください。ただし、その友達の殆どは君達の将来の出世や利益に繋がることはありません。しかし、このような友達こそ、長い人生の道のりで一大事が起こった時に唯一君達の身方となり支えてくれるかけがえのない存在になるでしょう。

えむら かずお 生活科学研究科長
生活科学部長

思い描いていた大学生活。現実はどうでしたか？ いろんな思いがあるはずですが、これから卒業までの間、自分はなにをしたいのか、なにができるのか、どこへ行きたいのか。さまざまな迷いと問いに、ときには戸惑うこと、あるでしょう。でも、大きな期待とときめきをもって、夢に向かって歩んでみませんか。

さとう よしひろ 工学研究科長
工学部長

今日から少し大きな視点で物事を観る癖をつけてみませんか。多くの諸君はこれまで、学校生活や家族との関係が生活の大半であったかもしれませぬ。これを地域社会との関わりや日本の国のあり方など、少し大きな視点で物事を観ることで世界が広がります。工学で扱う現代の科学技術は、人類の視点で物事を考える必要があります。

おやまだ ひろこ 看護学研究科長

大学生活では「挨拶から始まる人間関係」を創りましょう。そこから「疑問に思ったことを聞いてみる」「皆、同じ理解・感想かな？」と輪を広げ、知的探索の人間関係を目指してみましよう。卒業迄に専門的知識や高度な技術を取得することも大切ですが、社会に出発する迄に、人の心に話しかける術はより大切な事です。

あるが としゆき 創造都市研究科長

学部に入られた方もいれば、社会人大学院に70歳以上で入られる方もいる。30年以上前にはきわめて例外的であったことが、今や当たり前になりました。型破りの人だけは、昔より減ったかな。でもそれを国籍や年齢の多様性で補い、互いの相違を積極的に認める中で、触発されて自身の中に生じる変化を楽しんでゆきましよう。



UNIVERSITY



RESEARCH

完治への道は禁煙から! 逆流性食道炎には禁煙治療が有効



藤原靖弘 教授

医学研究科 消化器内科学の藤原靖弘教授らは、同総合医学教育学、上本町わたなべクリニックとの共同研究により、禁煙治療が胃食道逆流症 (GERD、Gastro-Esophageal Reflux Disease) に有効であることを日本で初めて明らかにしました。

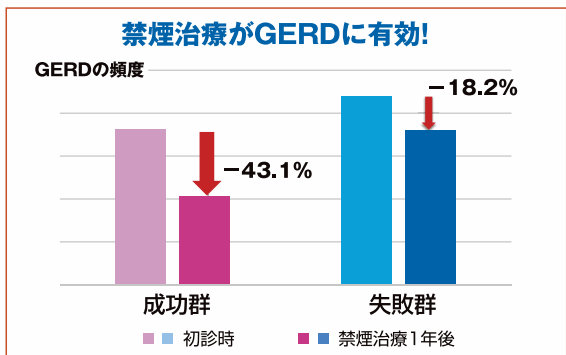
GERDは、一般的には逆流性食道炎と呼ばれ、胸やけや呑酸を主症状とし、生活の質 (QOL、Quality of Life) が低下する病気です。

日本では1990年代より増加している頻度の高い消化器疾患の一つで、現在、成人の約10~20%がこの疾患を患っていると推定されています。

本研究では、禁煙治療を受けた患者のうち、GERDと判断された患者を対象に、1年後の禁煙の成否と症状について調査しました。その結果、禁煙成功群の症状が有意に改善されており、禁煙治療がGERD症状に有効であることが証明されました。

今回の結果は、患者自身の選択により生活習慣の改善のみで、病気を克服できる可能性があることを示唆しています。

禁煙成功群ではGERD症状が43.1%で改善したのに対し、禁煙失敗群で改善したのは18.2%のみ



一般相対性理論が予言した重力波の観測実験 ～重力波を使ってブラックホールの 物理や高エネルギー天体の正体に挑む～



神田展行 教授

平成28年2月、米国のLIGO実験は2台の検出器により重力波を人類で初めて観測したと発表しました。重力波(時空のゆがみが波動として光と同じ速度で伝搬する現象)の存在はアインシュタインの一般相対性理論で予言されていましたが、今まで直接観測の例はなく、この発表は物理学史上に残る大成果となりました。

理学研究科の神田展行教授の研究室は、日本の重力波観測実験であるKAGRA実験の主要グループの1つで、重力波天文学において重要な観測データ解析の中心拠点です。岐阜県神岡山内に建設している重力波望遠鏡KAGRAのレーザー干渉計が記

録したデータは、なんと3秒後には本学の重力波データ解析用計算機に届いているのです。それを解析することで、微小な信号から重力波を捉えようとしています。重力波を観測できるようになると、ブラックホール、超新星爆発、ガンマ線バースト、中性子星、インフレーション宇宙といった宇宙現象の解明が期待されます。

「一刻も早くKAGRAの検出器で重力波を観測し、その重力波でブラックホールや強い重力場での物理学を研究し、宇宙にたくさん存在する高エネルギー天体の正体を探ること」が神田研究室の目標です。



平成28年2月、発表された米国のLIGO実験の内容を大勢のメディアに解説する神田教授



本学にある重力波データ解析用計算機

研究者 クローズアップ



医学研究科 藤原 靖弘 教授

文房具、小説、帽子など色々買い集めるのが好きな藤原教授。お子さんからは「しょうもないものばかり買って…」と呆れられているそうで、所有しているクラシック音楽のCDの数はなんと2000枚を超えるとのこと。「自分には高価なものは買わないけれど、奥さんへのプレゼントは別だよ!」と笑顔で語るコレクター、藤原教授でした。



研究者 クローズアップ



理学研究科 神田 展行 教授

自然界における4つの基本相互作用(重力、電磁気、強い力、弱い力)のうち、「重力」だけは直接研究したことがなかったという神田教授。1990年代、日本に大型レーザー干渉計を作るという計画が浮上した際に、「ここで重力に手を出せば、相互作用グランドスラムが達成できる!」という贅沢な望みが生まれ、そのプロジェクトに参加。気付けば重力波物理学が専門になっていたそうです。



EDUCATION

Global Village オープン!

平成28年4月、「Global Village」がオープンしました。この施設は、日本人学生と外国人留学生が自由に集い、交流し、学び合い、「他の国や地域に行ってみよう」「外国語でコミュニケーションしたい」「新しいことを学びたい」という学生の気持ちを応援する施設です。

国際関係のイベントを「Global Village」に集約し専属のスタッフを配置することで、海外情報収集、留学相談や留学生との交流等がいつでもできるようになりました。

オープン以降、教員提案による「留学の思い出写真コンテスト」、スリランカ出身留学生の提案による「スリランカデー」(出身地を紹介する企画)や、国際センター主催の「留学フェア」、英語教育開発センター主催の「English Café Talk」(ネイティブの教員と英会話を楽しむ企画)などの各種国際交流イベントを開催しています。

「Global Village」を通じて、グローバル感覚の醸成、海外留学意欲の向上、異文化理解などを促進し、より多くのグローバル人材を育成します。



オープニングセレモニーでの集合写真



オープニングセレモニーの様子



Global Villageの内観



学生の声

スリランカデー



創造都市研究科
ニロシャン・サンジャヤ

4月20日(水)、留学生企画の第一弾である「スリランカデー」が開催されました。イベントを企画・運営したのは3名のスリランカ人留学生、創造都市研究科のニロシャン、パヴィトゥラ、そして理学研究科のエランディ。

「インド洋の美しい真珠、スリランカの発見」をテーマに、参加者はスリランカ伝統のVesakランタン作りを体験しました。スリランカは小さな島ですが、そこに秘められた魅力は無限大。珍しいスリランカ料理に舌づつみを打ちながら、楽しいひと時を過ごしました。

イベントの開催目的は留学生と日本人学生との相互交流でしたが、日本人学生の参加者が少なかったため、今後のイベントでは日本人学生の参加を増やせるよう取り組んでいきます。



学生の声

インディアンデー



創造都市研究科
ポリヤブラム ヴィネーラス

人口約12億人、世界最大の民主主義国インド。多様な文化、宗教、言語が共存しているダイバーシティ国家インドは、グローバル化が進む現代社会においてモデル的な存在です。

5月20日(金)開催予定の「インディアンデー」では、インドの美しい観光地や多種多様な食べ物、文化イベントについて触れるだけでなく、その多様性を面白く親しみやすい方法で参加者に紹介します。

このイベントが、インドと日本の文化交流の素晴らしい機会となることを願っています。



RESEARCHERS

経営学研究科 経済統計学 高田 輝子 准教授

高田准教授の専門はComputational finance。統計や情報の技術を使って、金融市場における投資家行動を研究しています。特に金融バブルのような、人間の集団行動に起因して突然発生する大きな変化のメカニズムや、そうした危機時に見られる人間の集団行動パターンの解析に強い興味を持っています。

高田准教授は、金融バブルのような集団行動解析で主流だったシミュレーションによるアプローチの前に、まず、データが示す基本的事実を把握するのが重要だと考え、イリノイ大学の博士課程において、パラメータ(母集団を規定する量)についての仮定を一切おかないノンパラメトリック統

計を学び、解析技術の開発を行いました。

そして、その解析技術を大規模高頻度株式市場数値データ(なんと約300TBにも及ぶ!)や、ウェブや新聞などのテキストデータに適用することで、真の挙動の観察を行い、投資家集団行動の予測や制御に有用な事実の発見を目指しています。金融市場は、その構成員の多さや利用可能データサイズの観点から、社会集団行動の解析に適しています。得られた成果は、災害時の群衆行動をはじめ、他分野への応用可能性を拓くものになると考えられます。研究を精力的に進め、社会に役立つ成果を挙げていきたいと高田准教授は語ります。



◆アナザーサイド

日々忙しく、自分の時間はなかなか持たないという高田准教授。たまの息抜きは家族みんなで、自然豊かな場所に出掛けたり、体を動かすこと。ハイキング、山登り、サイクリング、テニス、水泳などを楽しんでいるそうです。最近は戦国時代好きの息子さん達の趣味で、お城に行く機会も増えています。

生活科学研究科 人間・環境学専攻 福田 美穂 准教授

福田准教授の専門は「中国建築史」。人間によってデザインされた「空間」が、何故そのように設計され、どのように使われてきたのかを研究しています。中国の宮殿や庭園、都市が主な研究対象です。

建築史は西洋由来の学問のため、文献豊富な中国といえども建築に関するまとまった資料はほとんど無く、文献中のわずかな記述から「空間」の謎に迫ります。例えば、13世紀にモンゴル人は中国を統治し始め、「中国風の宮殿を模倣して使用した」と言われてきました。しかし、よく調べると文献には宮殿区域でテントも建てて使っていた記述があります。モンゴル人支配者にとって宮殿には、漢族式の木造宮殿建築だけ

でなく、習慣であったテントも必要であったことがわかります。

文献を読むとき、自分の先入観や習慣によってかえって誤解する場合があります。過去にどんな空間があったかを知ることはとても難しいそうです。福田准教授は、当時の人々がどのような観念や習慣を持っていたかを考えながら「空間デザイン」を探求していく、このプロセスこそが本研究の醍醐味だと語ります。また、研究を重ねるにつれて、人が生きてきた空間を研究することは、空間を通して過去の人たちの生き方とその変遷を探求していくこととほぼ同義に感じられるようになったそうです。



◆アナザーサイド

京都から新快速に乗って通勤している福田准教授。通勤時間が長いので、座席に座れるよう「次の停車駅で降りる人」をいつも予想しているそうです。的中率は最近不調で、2割程度とのこと。また、幼い頃から建物や音楽でも古ければ古いものほど好きで、研究においても古いもの(文字で記録されているものに限り)に魅力を感じるそうです。

医学研究科 神経生理学 水関 健司 教授

水関教授の専門は「神経生理学」。記憶に重要な脳領域である海馬とその関連領域を対象として、電気生理学・光遺伝学的手法を用いて記憶のメカニズムを研究しています。

水関教授の研究室では、今まで観察することしかできなかった脳の神経活動について、光遺伝学的手法を用いることでその活動を制御することに成功しました。神経の活動を人為的に操作することで、神経の活動と記憶の因果関係にまで踏み込めることが水関研究室の強みだそうです。

海馬に入力された情報の出口である海馬台からそれぞれの脳領域にどのような情報が伝達されているのかを見極める研究「海馬台主細胞による投射先特異的な情報ルーティングの原理解明」は、平成28年3月に第56回東レ科学技術研究助成賞を受賞し、同分野での注目を集めています。

将来、記憶メカニズムの基礎研究が、認知症・うつ病・PTSD(心的外傷後ストレス障害)などの予防やより優れた治療法の開発基盤になることを信じて、日々研究に取り組んでいます。



◆アナザーサイド

中学、高校、大学とサッカーをしていた水関教授。毎日仕事帰りにスポーツジムに通い、泳いだり走ったりすることを心がけています。平成28年3月には、大阪の「たこやきマロン」で10kmを完走しました!(タイムは秘密とのこと) 研究のみならず、運動も大好きな水関教授ですが、そのうちフルマラソンに出場できるよう、日々トレーニングに励んでいるそうです。

平成28年度 学部・大学院入学式を挙行

平成28年4月4日(月)、大阪市中央体育館において学部・大学院入学式を挙行了。今年度の入学者は、学部1,552名(3年次編入生含む)、大学院643名(進学生、法科大学院生含む)でした。吉村大阪市長による祝辞、ノーベル生理学・医学賞受賞者で本学医学研究科OBの山中伸弥教授から頂いた祝電の披露などがありました。



YouTube動画はこちら

学長特別顧問を任命



写真左より青木豊彦氏、荒川学長、柳本晶一氏

平成28年度 公立大学法人大阪市立大学 学長特別顧問に柳本晶一氏(一般社団法人アスリートネットワーク 理事長)、青木豊彦氏(株式会社アオキ取締役会長)の2名が就任し、任命式が平成28年4月7日(木)に執り行われました。総合大学としての知を結集し、「スポーツ」と「ものづくり」を両輪として強い大阪づくりに貢献すべく、荒川学長と両氏による力強い握手が交わされました。

「コミュニティ防災フォーラム2016」を開催

都市防災教育研究センター(CERD)は、平成28年3月19日(土)に学術情報総合センター1階文化交流室において「コミュニティ防災フォーラム2016」を開催し、防災の専門家や地域防災リーダー、防災に関心のある地域住民の方々など約100名にご参加いただきました。1年間の活動報告や成果発表、地域住民の方々との活発な意見交換がなされ、参加者一同、防災教育の重要性を再認識しました。



講演を熱心に聴く参加者たち

第200回 市民医学講座記念講演を開催

平成28年2月16日(火)、医学部学舎大会議室において「第200回市民医学講座記念講演」を開催し、荒川哲男医学研究科長兼医学部長と石河修医学部附属病院院長が講演を行いました。当市民医学講座は、平成8年の開講から今年で20年の節目を迎えました。※役職は開催当時のものです。



石河病院長による講演



YouTube動画はこちら



荒川医学研究科長による講演

五代友厚銅像を建立

大阪市立大学同窓会が募った寄附金により建立された五代友厚銅像の完成記念行事が平成28年3月19日(土)に開催され、多くの関係者が集まりました。除幕式では、NHKの朝の連続テレビ小説「あさが来た」で五代友厚役を演じたディーン・フジオカ氏より祝辞が送られました。銅像の周囲にはベンチやテーブルが置かれ、四季折々の植物が楽しめる憩いの場として整備されています。



完成記念行事の様子

平成27年度 名誉教授称号授与式を挙行

平成28年3月31日(木)、学術情報総合センター10階 大会議室において、平成27年度大阪市立大学名誉教授称号授与式が行われ、今年度は18名の方に名誉教授の称号が授与されました。なお、今年度定年退職を迎えられた先生方の最終講義をまとめた動画が本学公式YouTubeチャンネルにアップロードされています。

名誉教授称号を授与された先生方



YouTube動画はこちら



平成28年度「白衣授与式」を開催

平成28年4月9日(土)、医学部学舎において平成28年度「白衣授与式」を開催しました。医学部のシンボルマークが刺繍された白衣を身にまとい、学生達は長期臨床実習に向けて決意を新たにしました。

医学部新5年生のみなさん



YouTube動画は
こちらから

ユトレヒト大学から学生が訪問



ユトレヒト大学と本学の学生たち

平成28年4月20日(水)、オランダのユトレヒト大学から9名の学生が、本学学生とビジネスイノベーションについて意見交換をするため、本学を訪れました。経営学研究所・商学部で山田仁一郎教授と太田雅晴教授の下で学ぶ約30名の学生が参加し、相互のプレゼンテーションやグループ別の意見交換がなされました。

「第11回ふたば祭」を開催

平成28年4月21日(木)～23日(土)の3日間、杉本キャンパスにおいて春の大学祭「ふたば祭」が開催されました。今年のテーマ「ゼンマイジカケ」には、本学のクラブ・サークルや新入生が地域の方々の協力を得て、ふたば祭という大きな歯車を動かして一緒に大学を盛り上げよう、という意味が込められています。



邦楽くらぶによるステージ演奏

「イチダイ花壇」がオープン!



セレモニーの様子

平成28年4月11日(水)、杉本キャンパスにおいて「イチダイ花壇」オープニングセレモニーが開催されました。「イチダイ花壇」は、第1学生ホール前をリノベーションする目的で、平成27年3月に開催された教育後援会主催「庭ラボ 学生アイデアコンペ」で最優秀賞(教育後援会会長賞)を受賞した作品をもとに造園されました。式典では、受賞者代表の塩原裕樹さん(平成27年3月工学研究科修了)から、「四季の花を楽しむ学生の憩いの場になってほしい」という思いが語られました。

サイエンス・インカレで奨励表彰を受賞!

平成28年3月5日(土)・6日(日)の両日、神戸国際会議場で開催された文部科学省主催「第5回サイエンス・インカレ」において、理学部 地球学科4年生の吉江紋加さんが「土壌中の炭化物の化学構造からみた時間経過に伴うその消失・分解過程」というタイトルで発表を行い、サイエンス・インカレ奨励表彰を受賞しました。

※学生の学年表記は受賞時のものです。



笑顔で賞状を披露する
吉江紋加さん

商・田村ゼミが「西日本インカレ2015」で 優秀賞を受賞

田村ゼミのみなさん



発表テーマは「徳する 得する
とくし丸—ソーシャルビジネス
成立への戦略的Action—」

平成27年12月20日(日)、大阪経済大学で開催された日経BPマーケティング主催「西日本インカレ2015」において、商学部の田村ゼミ「チーム掌(たなごころ)」が優秀賞を受賞しました。全71チーム中2位の好成績であり、『日経ビジネス』(平成28年3月28日号)に写真が掲載されました。

「防災士養成講座」を開始!

わが国は阪神・淡路大震災や東日本大震災、また最近発生した平成28年熊本地震から、自然の脅威とそれがもたらす甚大な被害を身をもって経験しました。このような大災害に立ち向かうためには、公的機関が適切な備えを行うことはもちろんのこと、私たち自身が災害や防災に関する知識や技能を身につけておく必要があります。

この度、平成28年度前期に開講されてい

る全学共通教育科目「コミュニティ防災」が日本防災士機構の「防災士養成講座」として認証されました。この取り組みは京阪神地区の大学としては初めての試みです。

都市防災教育研究センター(CERD)では、頻発する自然災害に対し、災害に強いまちづくりを目指して、地域の防災リーダーとして活躍できる人材を育成するとともに、地域コミュニティの自助・共助力を高めるさまざまな活動を行ってまいります。



「コミュニティ防災」の授業風景

特定非営利活動法人日本防災士機構は、さまざまな場においての減災と社会の防災力向上を目指し、災害や防災に関する知識や技能を有する者を「防災士」として認証する制度を平成15年に開始しました。平成28年3月末の時点で、全国で109,093人、大阪府で3,111人が防災士として登録しています。



平成28年熊本地震の震度分布についての解説



自身がしている防災対策について発表中



広域避難所についての解説

CERD関連動画は
こちらから



OSAKA CITY UNIVERSITY

大学サポーターだより

「大阪市立大学夢基金」へ、寄附のご協力をお願いします!

この4月より、荒川理事長兼学長のもと新執行体制となり、「笑顔あふれる知と健康のグローバル拠点」をスローガンに大学づくりがスタートしました。

大阪市立大学は公立大学として日本で最も長い歴史を誇り、これまで都市大阪のみならず、国内外にさまざまな分野で活躍する卒業生を多数輩出してきました。

本学の学生が夢を持ち、充実した学生生活を送れるよう、また都市大阪を牽引する研究が活発に展開されるためにも、みなさまからの応援を心よりお願いします。

なお、お寄せいただいた寄附金は、学生の教育及び大学の研究活動に使わせていただきます。

大阪市立大学夢基金
3つの柱

グローバル人材の
育成

国際的な
知的インフラ、
知的拠点をめざして

キャンパス施設・
環境整備

快適な
環境づくりを
めざして

教育・研究・
医療環境の充実

より充実した
教育・研究・医療環境
づくりをめざして

問い合わせ先

大学サポーター支援室
TEL: 06-6605-3415 E-mail: supporter@ado.osaka-cu.ac.jp

寄附額について

個人の方は一口2千円から、法人の方は一口1万円から受付けております。なお、振込手数料が必要な場合は大阪市立大学が負担します。

詳しくは、

OCU INFORMATION

❖ 文化交流センター 夏期公開講座「学問の先達は語る」を開催します

文化交流センター主催の夏期公開講座「学問の先達は語る」では、本学名誉教授を中心とした講師たちが自身の長年の研究について講演します。さまざまなテーマをご用意していますので、興味・関心のある方はぜひこの機会にご参加ください。

●場所：大阪市立大学 文化交流センター ●受講料：1回500円(大阪市立大学の学生は無料) ●定員：各回120名(先着順)
※各回とも申込先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

日時	テーマ	講師
7月13日(水) 18:30~20:00	がん(癌)を知る	大阪市立大学大学院 医学研究科 名誉教授 平川 弘聖(ひらかわ こうせい)
7月20日(水) 18:30~20:00	萬葉集、そして子規へ、蕪村へ—詩歌を読む、ってどんなこと?—	大阪市立大学大学院 文学研究科 名誉教授 村田 正博(むらた まさひろ)
7月21日(木) 18:30~20:00	日本における社会的企業の現状と課題	大阪市立大学大学院 創造都市研究科 名誉教授 明石 芳彦(あかし よしひこ)
7月26日(火) 18:30~20:00	今どき、マルクスを論じる意味なんてあるんですか?	大阪市立大学大学院 経済学研究科 名誉教授 大島 真理夫(おおしま まりお)
7月28日(木) 18:30~20:00	素粒子物理の研究と計算機の発展	元 大阪市立大学大学院 理学研究科 准教授 寺本 吉輝(てらもと よしき)
8月3日(水) 18:30~20:00	遊び心で学ぶ国際金融	大阪市立大学大学院 経営学研究科 名誉教授 西倉 高明(にしくら たかあき)
8月25日(木) 18:30~20:00	個人にとっての「家族」・国家にとっての「家族」	大阪市立大学大学院 生活科学研究科 名誉教授 要田 洋江(よくだ ひろえ)



昨年度の講座の様子



申込方法
 ■ホームページ ▶ <https://www.connect.osaka-cu.ac.jp/openlectures/view/204>
 ■FAX、封書 ▶ 募集案内の受講申込書により申し込み ※封書の場合82円切手を貼った返信用定形封筒を同封。下記申込先のFAX番号または住所まで
 ■窓口 ▶ 開館時間：月～金／9:45～21:30 土／9:45～17:30 日曜・祝日休館 窓口申込時は返信用切手・封筒は不要です。

申込先 〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-600 大阪駅前第2ビル6階 大阪市立大学 文化交流センター TEL:06-6344-5425 FAX:06-6344-5524

イベントの詳細については、本学ホームページ (<https://www.connect.osaka-cu.ac.jp/openlectures/view/204>) をご覧ください。

就職支援室からのお知らせ

❖ 就職支援室ってどんなところ?

就職支援室では、進路・就職に関する個別相談や就職ガイダンス・学内企業セミナーなど、皆さんの就職活動に関するさまざまなサポートを行っています。ぜひご活用ください!

1 個別相談



キャリアコンサルタント資格保持者や職務経験豊かなスタッフによる、本人の特性や希望に応じた進路・就職相談

2 就職ガイダンス



就職活動の基礎知識、自己分析、業界・企業研究、エントリーシートの考え方、グループディスカッション講座、マナー講座、面接対策など

3 21世紀セミナー 学内企業セミナー



年間開催日数80日以上、参加企業団体数は900社以上!多数の企業や官公庁の方々、OB・OGを学内に招き、最新情報を提供

❖ 2018年度卒業予定者対象の就職ガイダンスがスタートします!

就職活動時期や就職活動における基本的な知識についてお話しします。将来に向けて今からやるべきことは何なのか。卒業後の進路について、迷っている方や考えたことがない方もぜひ参加してください。

第1回就職ガイダンス 「就職活動の基礎知識」

【日時】6月7日(火)～10日(金) 16:30～18:00
【場所】杉本キャンパス 高原記念館

※各回、同じ内容です。授業に合わせ全て都合の良い日を選んで参加してください。

※詳細及び以降のスケジュールは、全学ポータルサイトをcheck!

大阪市立大学広報誌

CITY
×
UNIVERSITY Vol.21

発行：公立大学法人 大阪市立大学
企画・編集：法人運営本部 広報室
デザイン協力：desk
発行日：2016年5月

本誌に関するお問い合わせ・ご意見・ご感想は
大阪市立大学 法人運営本部 広報室
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
e-mail: t-koho@ado.osaka-cu.ac.jp

本誌に掲載の写真および原稿の無断転用を禁じます

グローバルな都市研究・教育拠点



大阪市立大学
OSAKA CITY UNIVERSITY

杉本キャンパス

商・経・法・文・理・工・生活科学 各学部・各大学院研究科
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

阿倍野キャンパス

医学部・大学院医学研究科・大学院看護学研究科・医学部附属病院
〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

梅田サテライト

大学院創造都市研究科・文化交流センター
〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-600 大阪駅前第2ビル6階

<http://www.osaka-cu.ac.jp>